



住居系市街地における 住民の散歩ルートと緑地の出現状況との関係性

緑地計画学 椎原大貴



研究の背景及び目的

背景

新型コロナウイルス感染症の流行を契機とし、生活様式の変化や健康への意識の高まりにより、日常的に行うことができる運動として散歩が注目されている。

密を回避する観点やテレワークの増加により、公園など身近な緑の価値が再認識されている。

散歩には「歩きやすさ」に加えて、ルートの快適性や心地よさといった「歩きたくなる」環境の整備が重要であると言われている。

目的

都市部の住居系市街地における住民の散歩行動を対象に、散歩ルートに沿って現れる緑地を把握することで、散歩がしたくなる緑地空間のあり方を探る。

調査対象地の設定

【利用データ】

第5回近畿圏パーソントリップ調査

主体：京阪神都市圏交通計画協議会

時期：2010年10月～11月

対象：近畿2府4県に居住する世帯

集計：1日の全ての移動の「出発地」

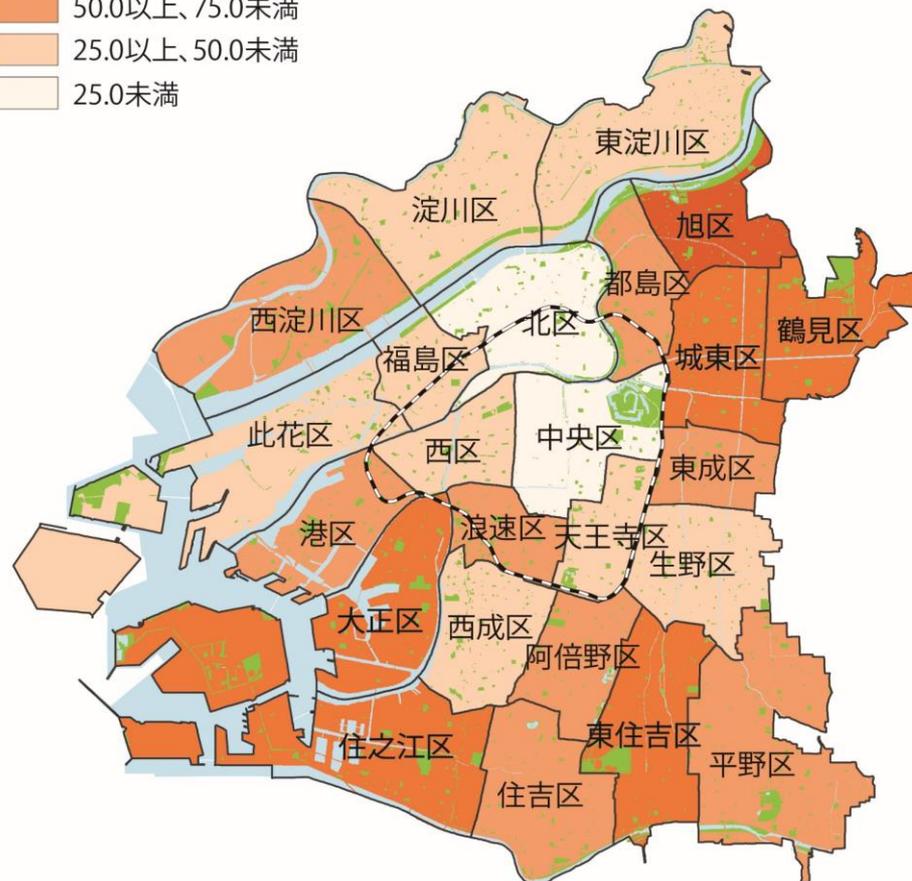
「到着地」「所要時間」「目的」

「代表交通手段」等を集計

【散歩比率の算出方法】

大阪市24区内を出発する全てのトリップのうち、「目的：散歩」「代表交通手段：徒歩」であるトリップを散歩トリップとして抽出し、各区での占める値を算出。

散歩比率（散歩トリップ/10,000総トリップ）



調査対象地の設定

【利用データ】

第5回近畿圏パーソントリップ調査

主体：京阪神都市圏交通計画協議会

時期：2010年10月～11月

対象：近畿2府4県に居住する世帯

集計：1日の全ての移動の「出発地」

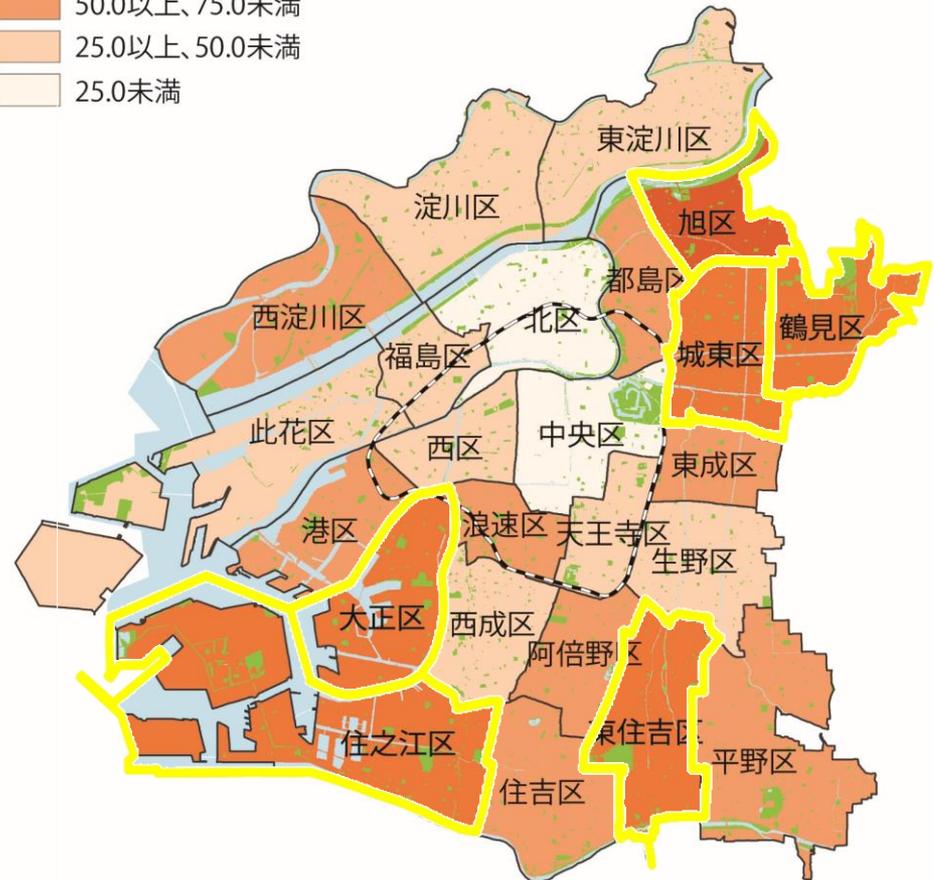
「到着地」「所要時間」「目的」

「代表交通手段」等を集計

【散歩比率の算出方法】

大阪市24区内を出発する全てのトリップのうち、「目的：散歩」「代表交通手段：徒歩」であるトリップを散歩トリップとして抽出し、各区での占める値を算出。

散歩比率（散歩トリップ/10,000総トリップ）



住民の散歩状況の調査及び解析方法

アンケート調査の方法

【調査時期】 2021年10月中旬～11月下旬

【調査対象】 区内を巡回し「散歩中の人」を特定

【方 法】 直接対面方式のアンケート
有効回答数 96票

【質問項目】

回答者の属性

性別 / 年齢 / 家族構成 / 職業 / 居住歴 〈5項目〉

散歩特性

頻度 / 継続期間 / コロナ禍による頻度変化 /
平均時間 / 時間帯 / 同行者 / 目的 〈7項目〉

散歩ルート (サインマップ法)

位置 / 選択理由 〈2項目〉

お気に入りの緑 (サインマップ法)

位置 / 理由 〈2項目〉

散歩状況の解析方法

【回答者の属性と散歩特性】

単純集計

【散歩ルートのグルーピング】

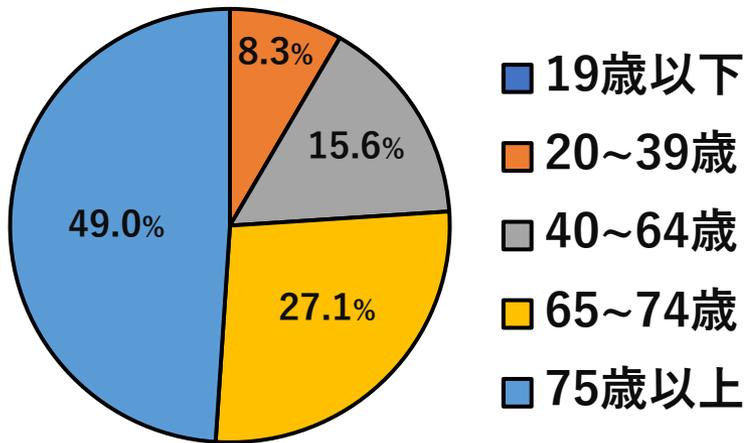
散歩ルートの選択理由

コレスポンデンス分析及び
クラスター分析

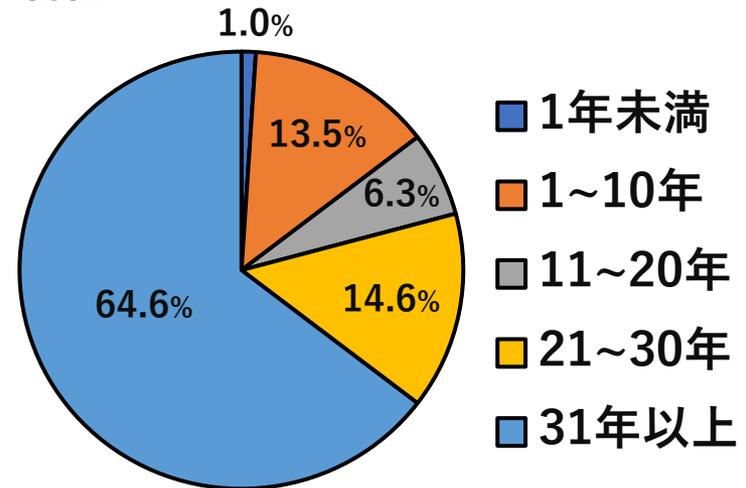
▶ グルーピング

住民の散歩状況：回答者の属性

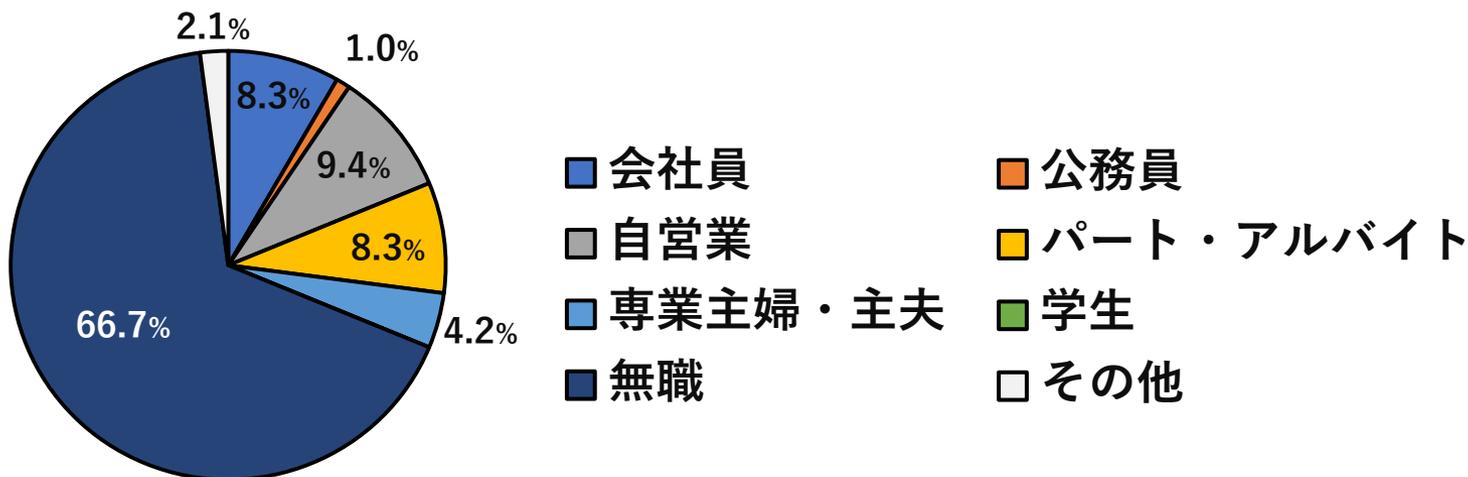
年齢構成



居住歴

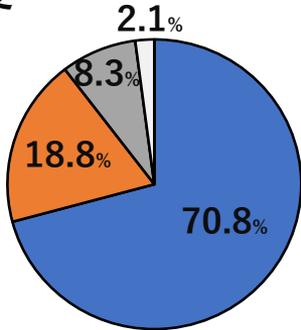


職業



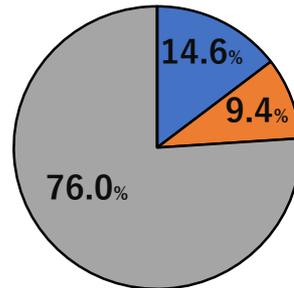
住民の散歩状況：散歩特性

頻度



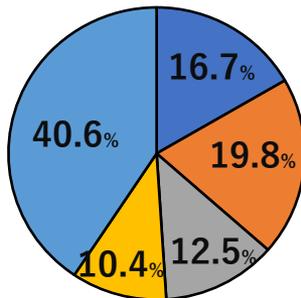
- ほぼ毎日
- 週に2、3日
- 月に2、3日
- 年に数日
- その他

コロナ禍による変化



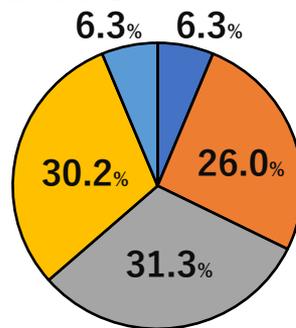
- 以前より増加した
- 以前より減少した
- あまり変わらない

継続期間



- 1年未満
- 1~2年
- 2~5年
- 5~10年
- 10年以上

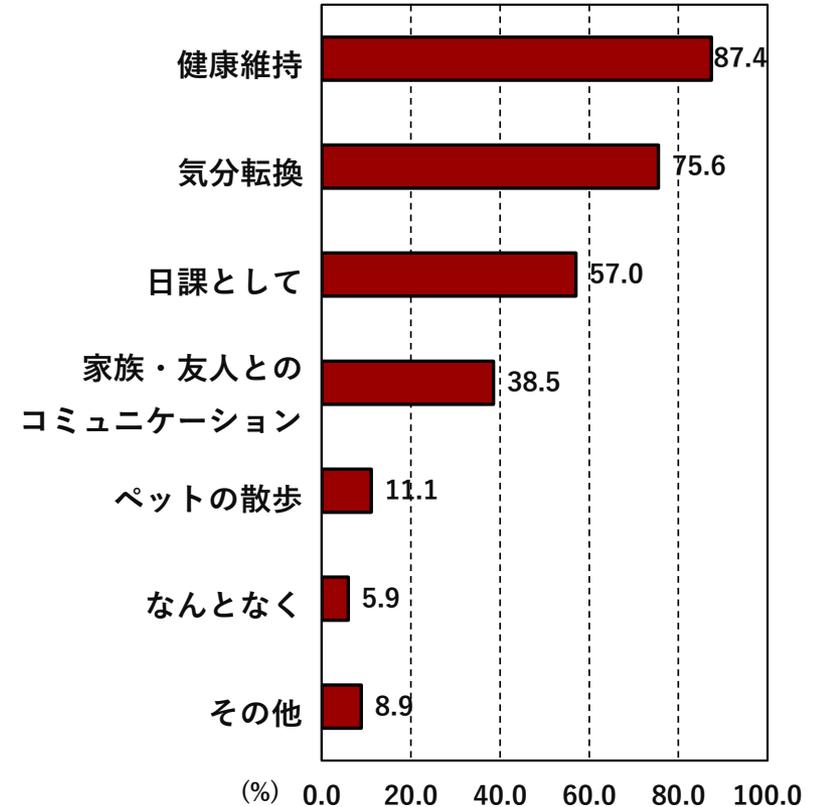
平均時間



- 20分未満
- 20~40分
- 40分~1時間
- 1~2時間
- 2時間以上

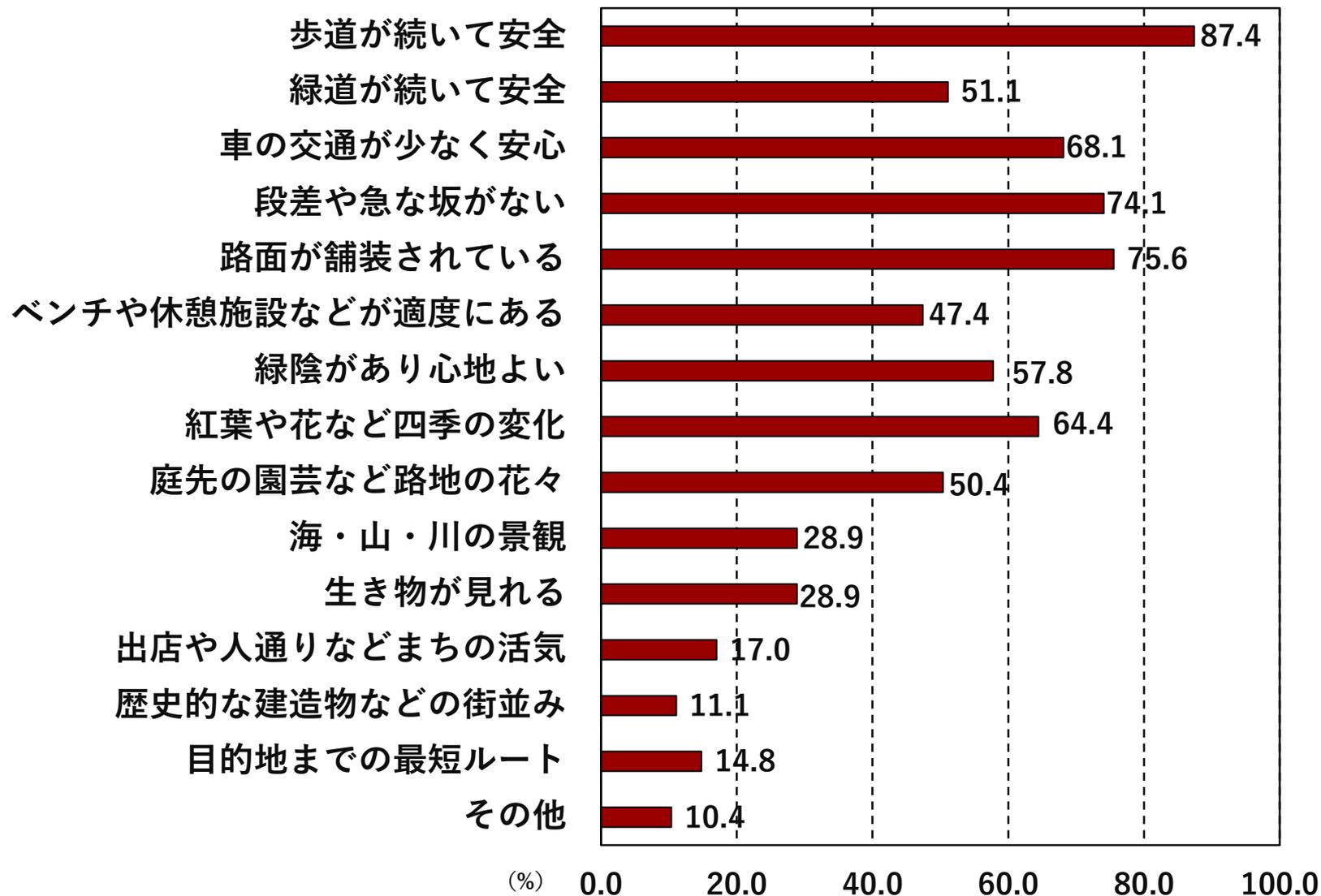
目的

有効ルート数 135ルート

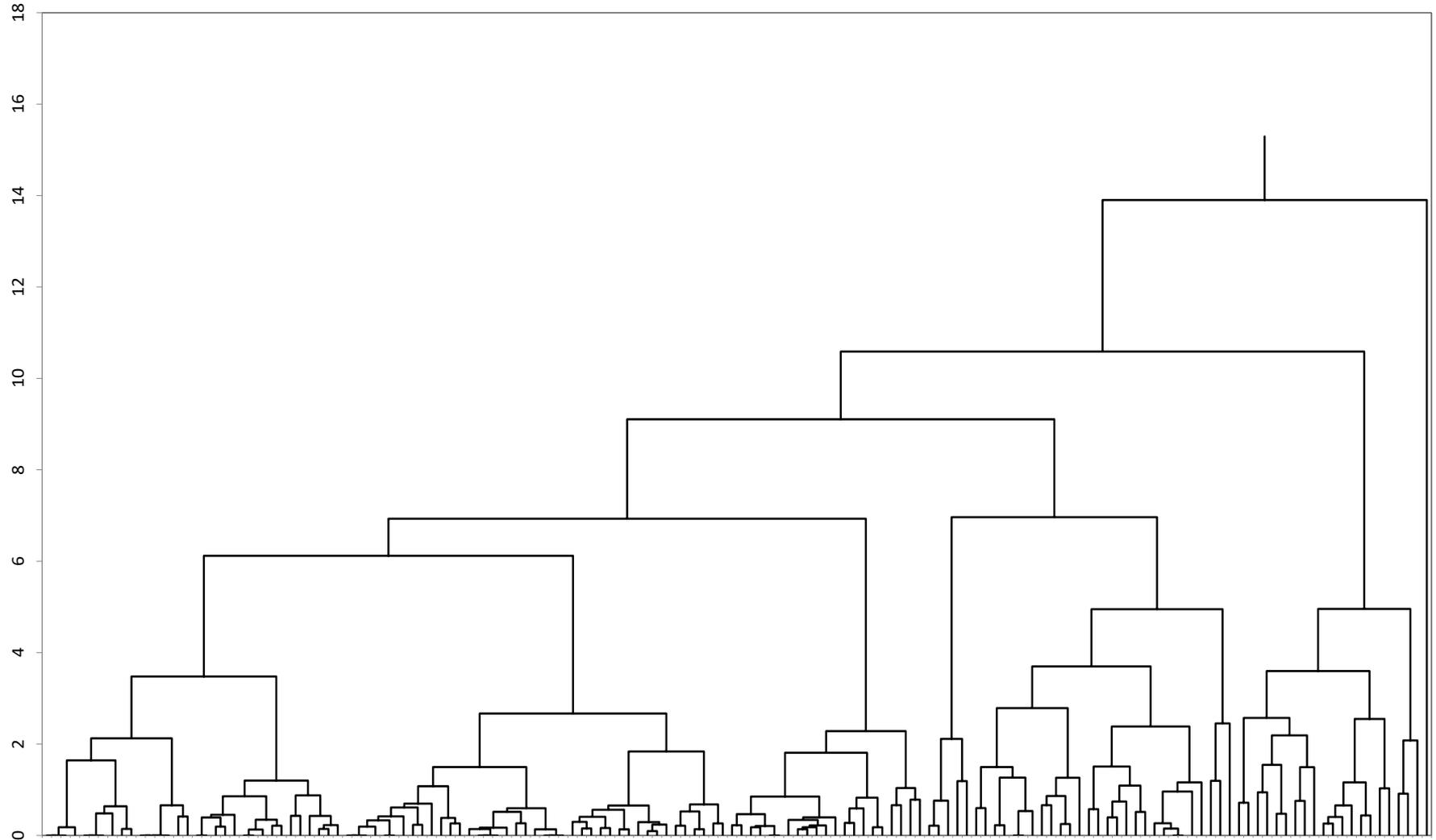


(%) 0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0

散歩ルートでのグルーピング：散歩ルートを選択理由

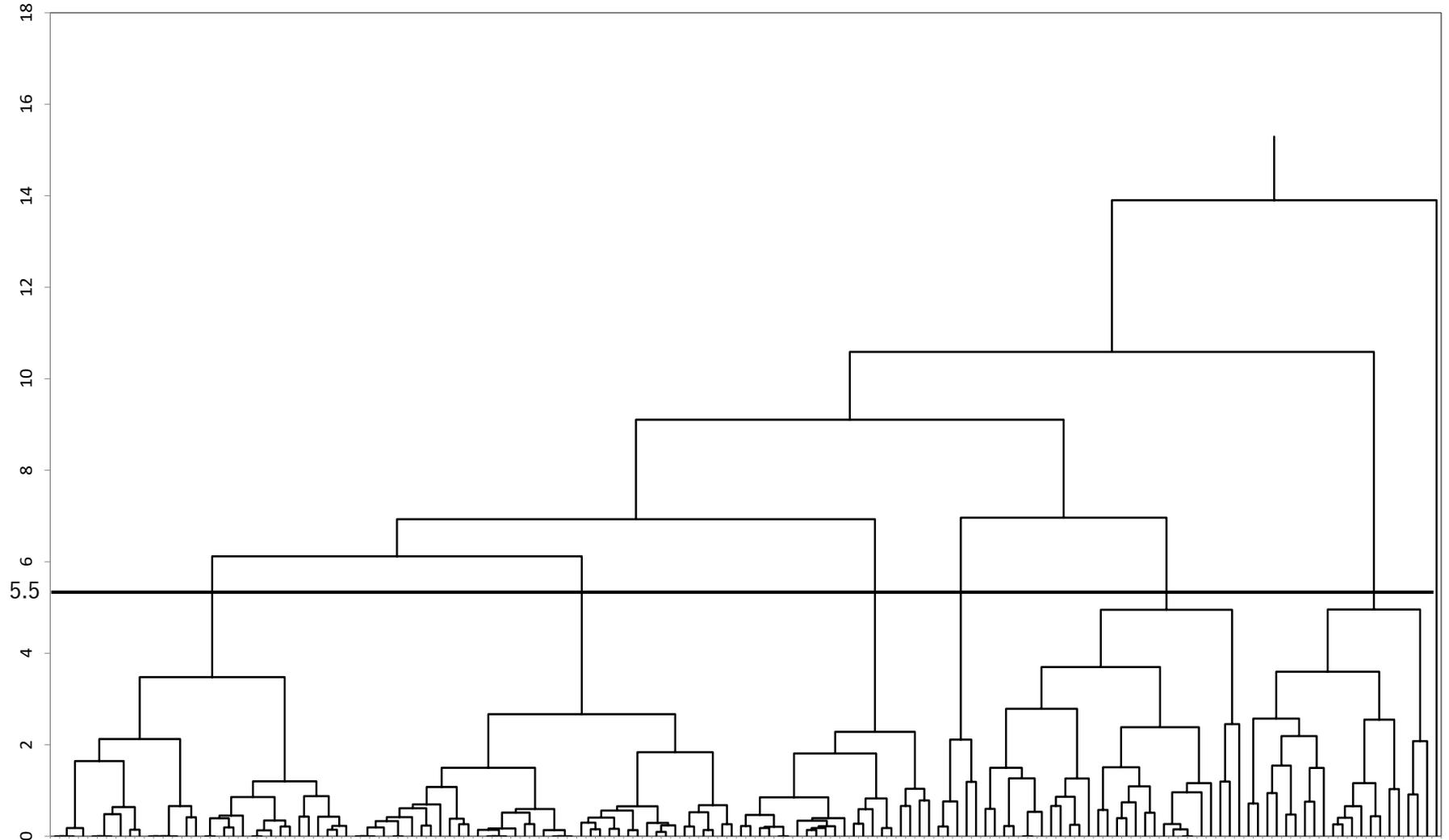


散歩ルートのごループング：クラスター分析結果



* ルート番号、選択理由を付値

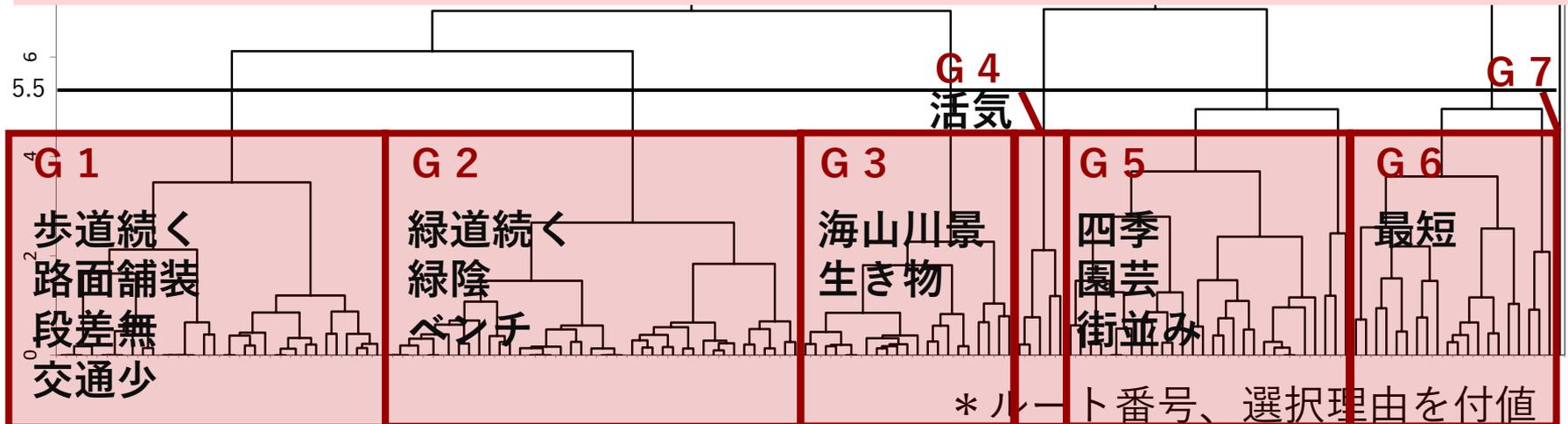
散歩ルートのごループピング：クラスター分析結果



* ルート番号、選択理由を付値

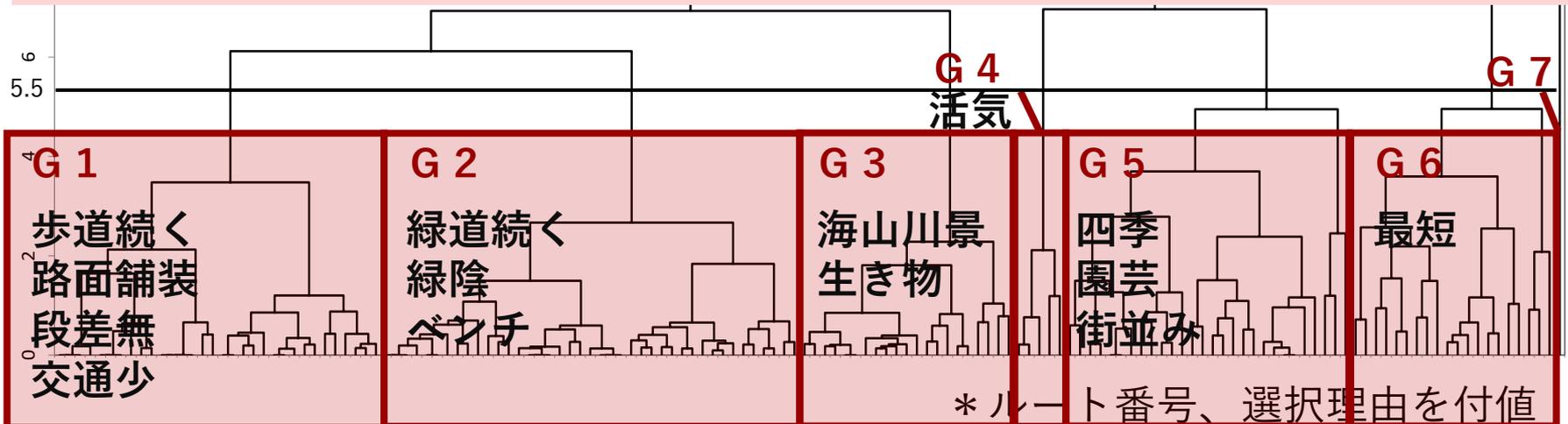
散歩ルートのごループング：クラスター分析結果

G 1	歩道が続き路面が舗装されており段差や急な坂が少なく車交通を気にせず歩けるルート	28ルート
G 2	緑道が続き緑陰が心地よくベンチや休憩施設が適度に配置されているルート	38ルート
G 3	海山川の景色や生き物が楽しめるルート	19ルート
G 4	まちの活気を楽しめるルート	4ルート
G 5	四季の移ろいや路地の園芸と街並みが楽しめるルート	25ルート
G 6	目的地までの最短ルート	19ルート
G 7	どれにもあてはまらないルート	1ルート



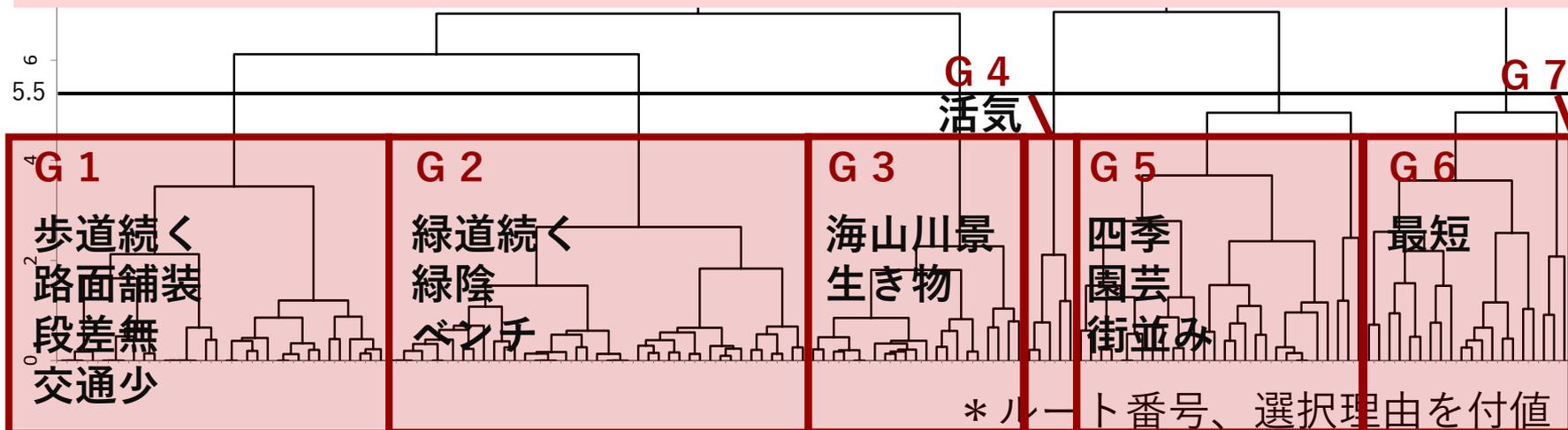
散歩ルートของกลุ่มピング：クラスター分析結果

G 1	歩道が続き路面が舗装されており段差や急な坂が少なく 車交通を気にせず歩けるルート	歩きやすさ	28ルート
G 2	緑道が続き緑陰が心地よく ベンチや休憩施設が適度に配置されているルート		38ルート
G 3	海山川の景色や生き物が楽しめるルート		19ルート
G 4	まちの活気を楽しめるルート		4ルート
G 5	四季の移ろいや路地の園芸と街並みが楽しめるルート		25ルート
G 6	目的地までの最短ルート		19ルート
G 7	どれにもあてはまらないルート		1ルート



散歩ルートのごループング：クラスター分析結果

G 1	歩道が続き路面が舗装されており段差や急な坂が少なく車交通を気にせず歩けるルート		28ルート
G 2	緑道が続き緑陰が心地よくベンチや休憩施設が適度に配置されているルート	歩きやすさ +	38ルート
G 3	海山川の景色や生き物が楽しめるルート		19ルート
G 4	まちの活気を楽しめるルート	歩きたくなる	4ルート
G 5	四季の移ろいや路地の園芸と街並みが楽しめるルート		25ルート
G 6	目的地までの最短ルート		19ルート
G 7	どれにもあてはまらないルート		1ルート



住民の散歩ルートと緑地の出現状況

対象

歩きやすさ + 歩きたくなる環境要素が理由となっている4グループ 計86ルート

調査項目

【通路構造と歩道有無】

緑道・歩専道 / 公園路 / 商店街 / 1車線 / 2車線 / 4車線以上 + 歩道有無

【沿道土地利用】

住居系 / 商業業務系 / 工業系 / 公共公益施設 / 農地 / 公園・緑地 / 水域 / その他

【お気に入りの緑】

ルート上に出現する各住民のお気に入りの緑

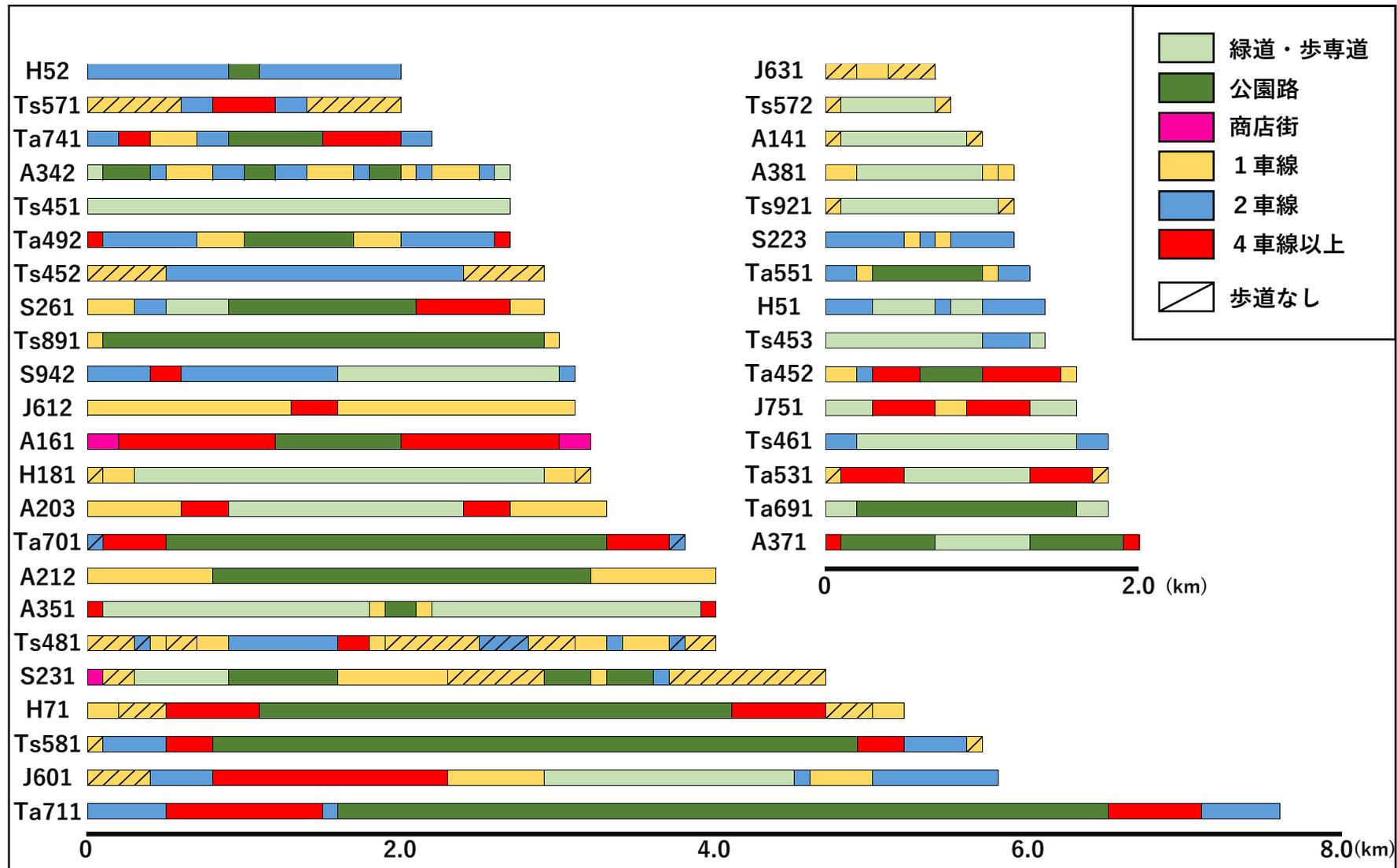
集計単位：100m

G2.緑道が続き緑陰が心地よく

ベンチや休憩施設が適度に配置されているルート

38ルート

通路構造と歩道有無

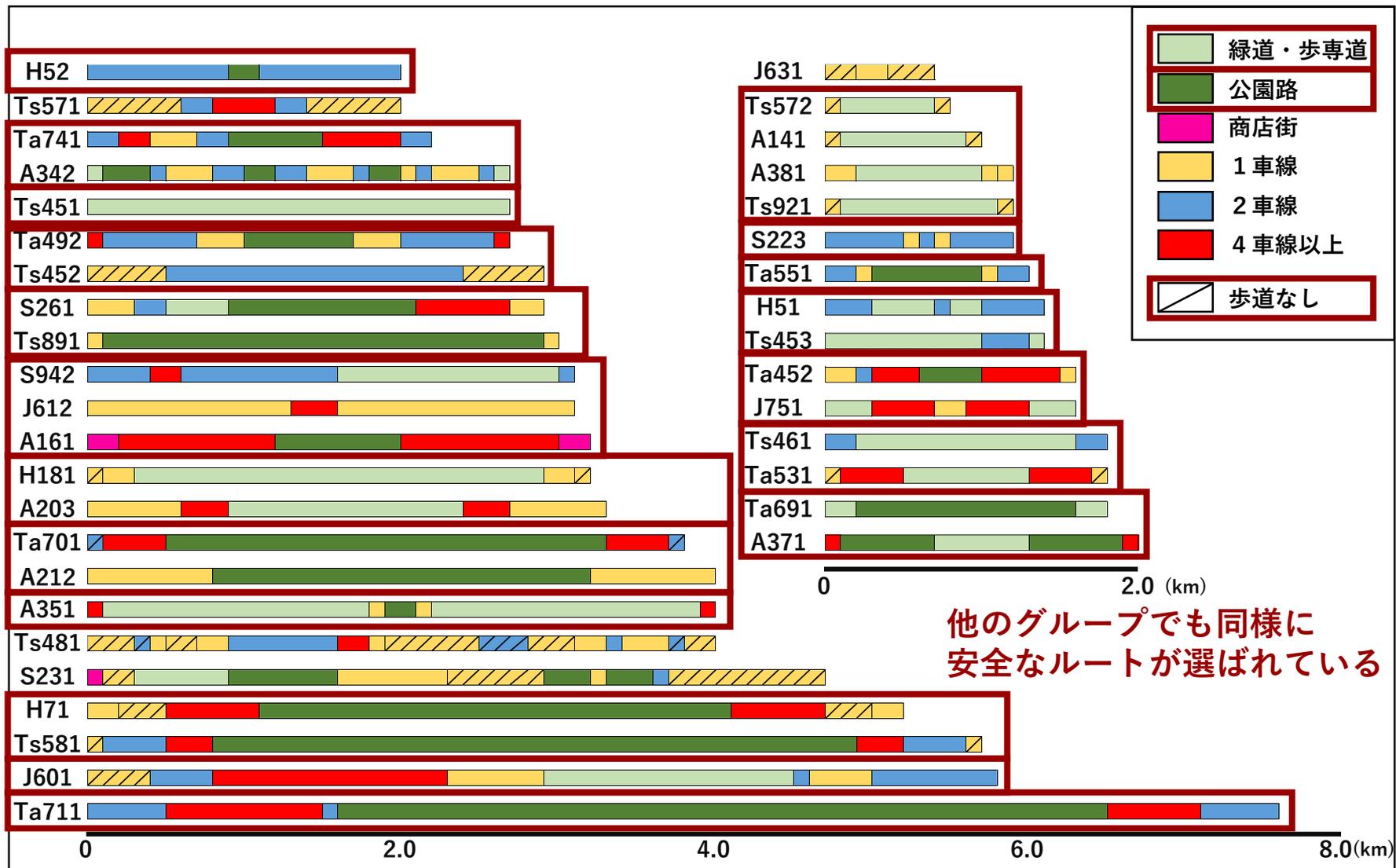


G2.緑道が続き緑陰が心地よく

ベンチや休憩施設が適度に配置されているルート

38ルート

通路構造と歩道有無

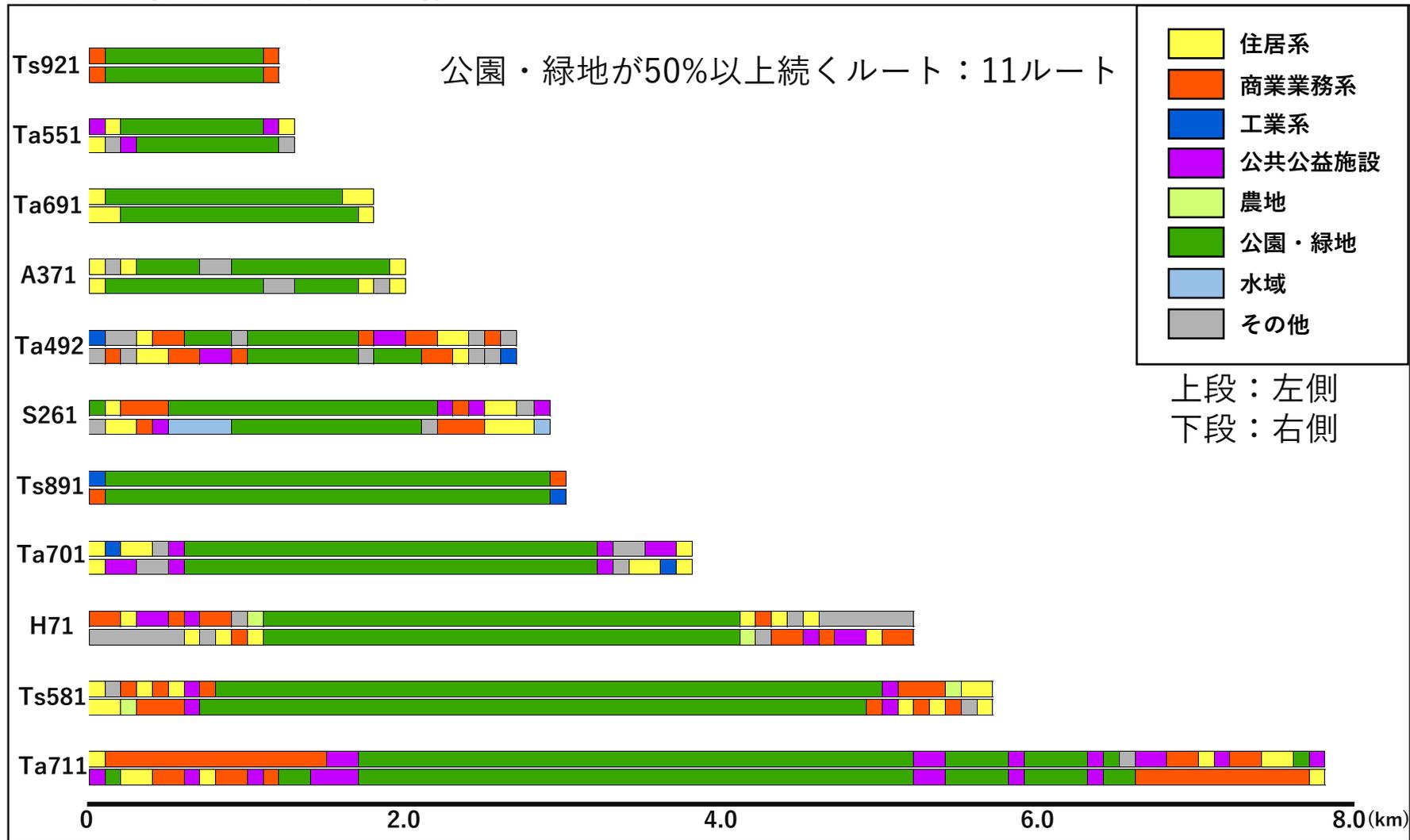


G2.緑道が続き緑陰が心地よく

ベンチや休憩施設が適度に配置されているルート

38ルート

沿道土地利用とお気に入り緑

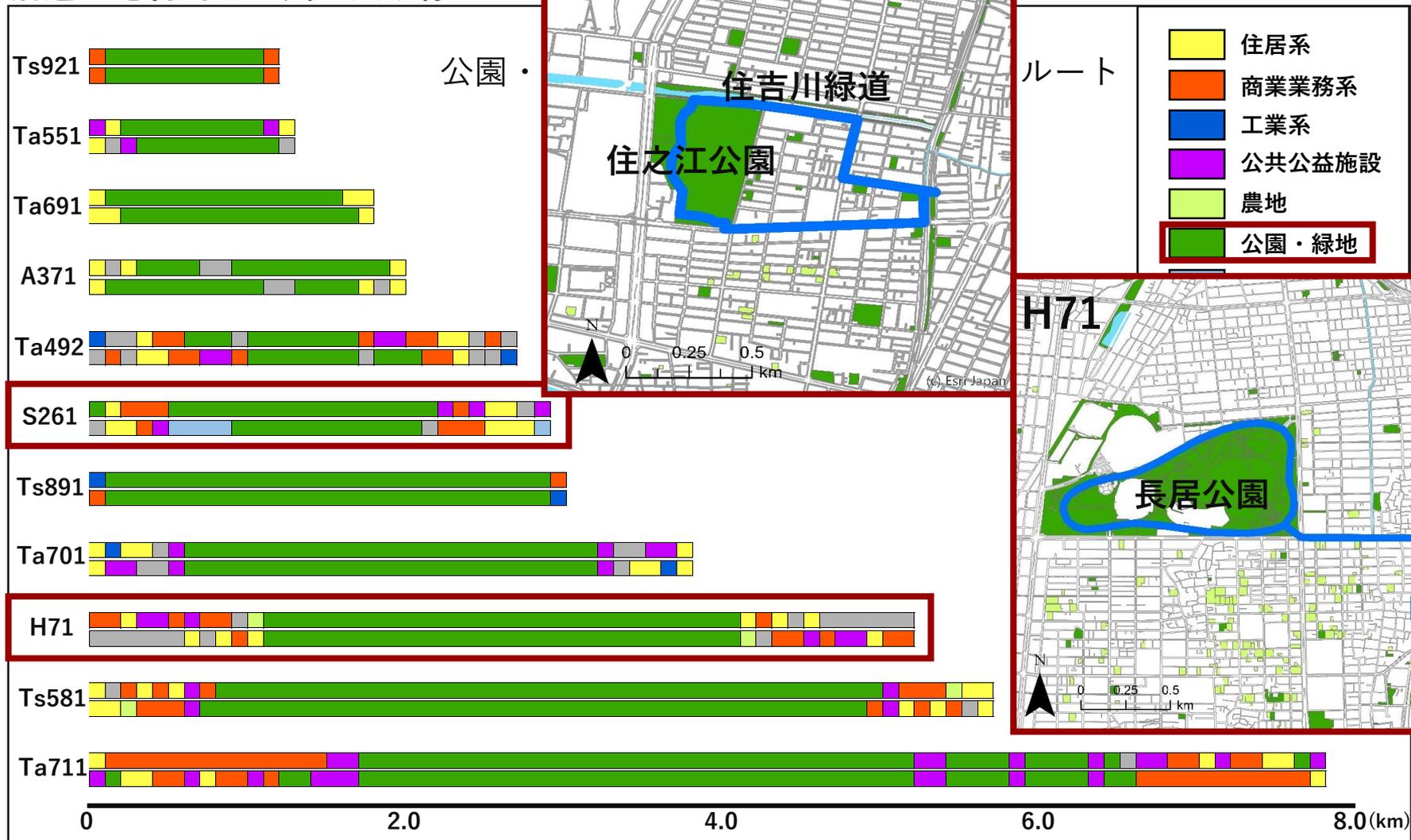


G2.緑道が続き緑陰が心地よく

ベンチや休憩施設が適度に配置されているルート

38ルート

沿道土地利用とお気に入り緑

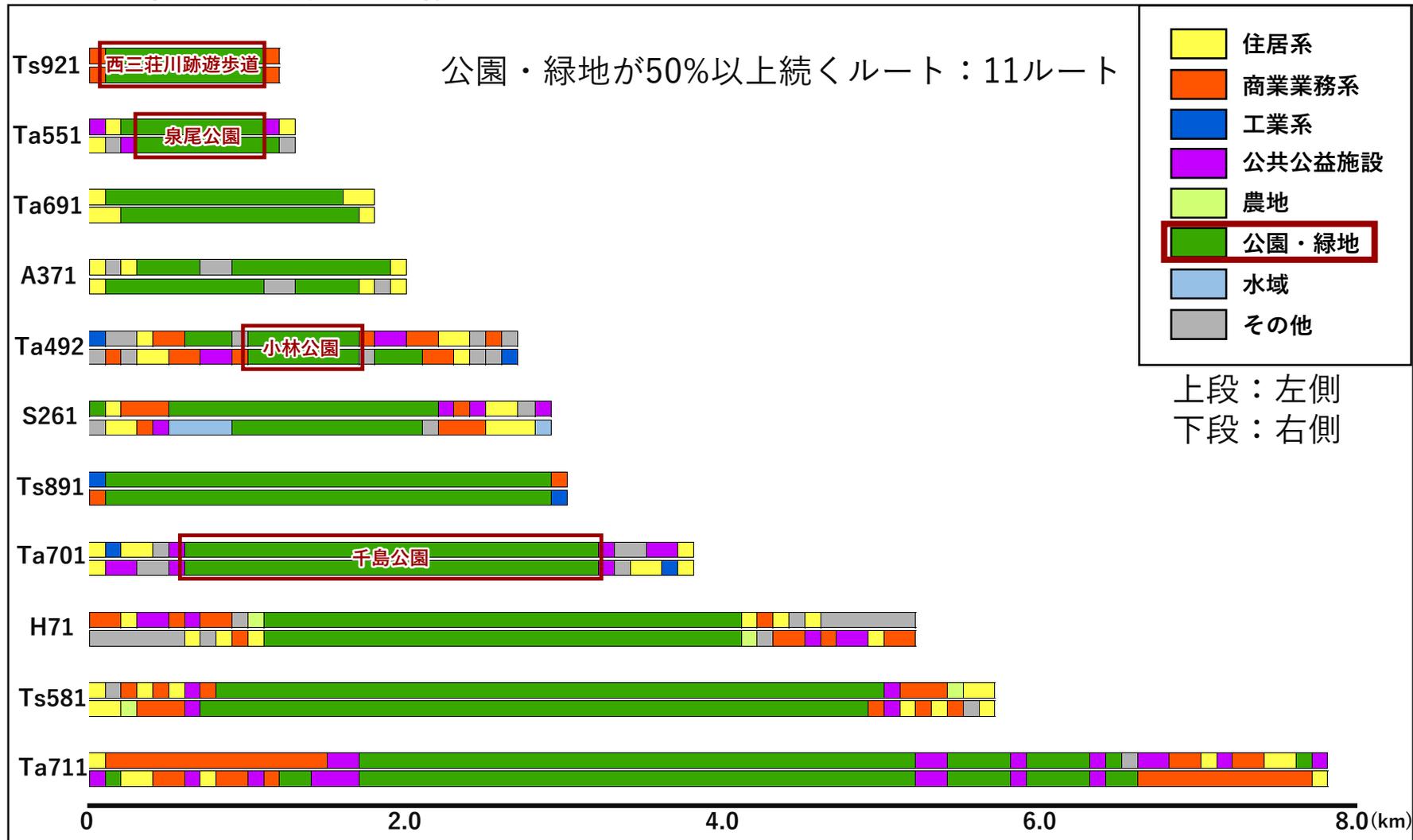


G2.緑道が続き緑陰が心地よく

ベンチや休憩施設が適度に配置されているルート

38ルート

沿道土地利用とお気に入り緑

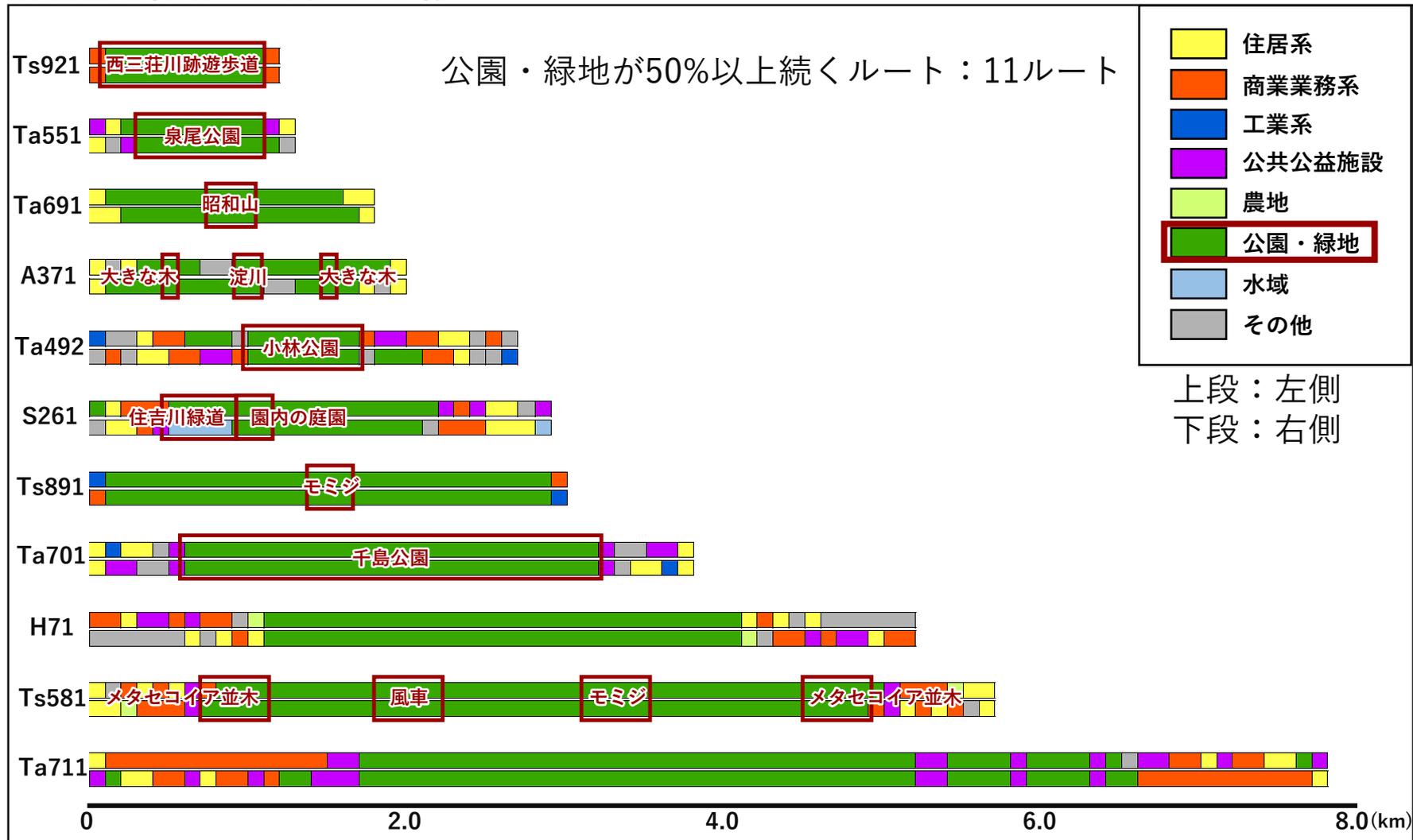


G2.緑道が続き緑陰が心地よく

ベンチや休憩施設が適度に配置されているルート

38ルート

沿道土地利用とお気に入り緑



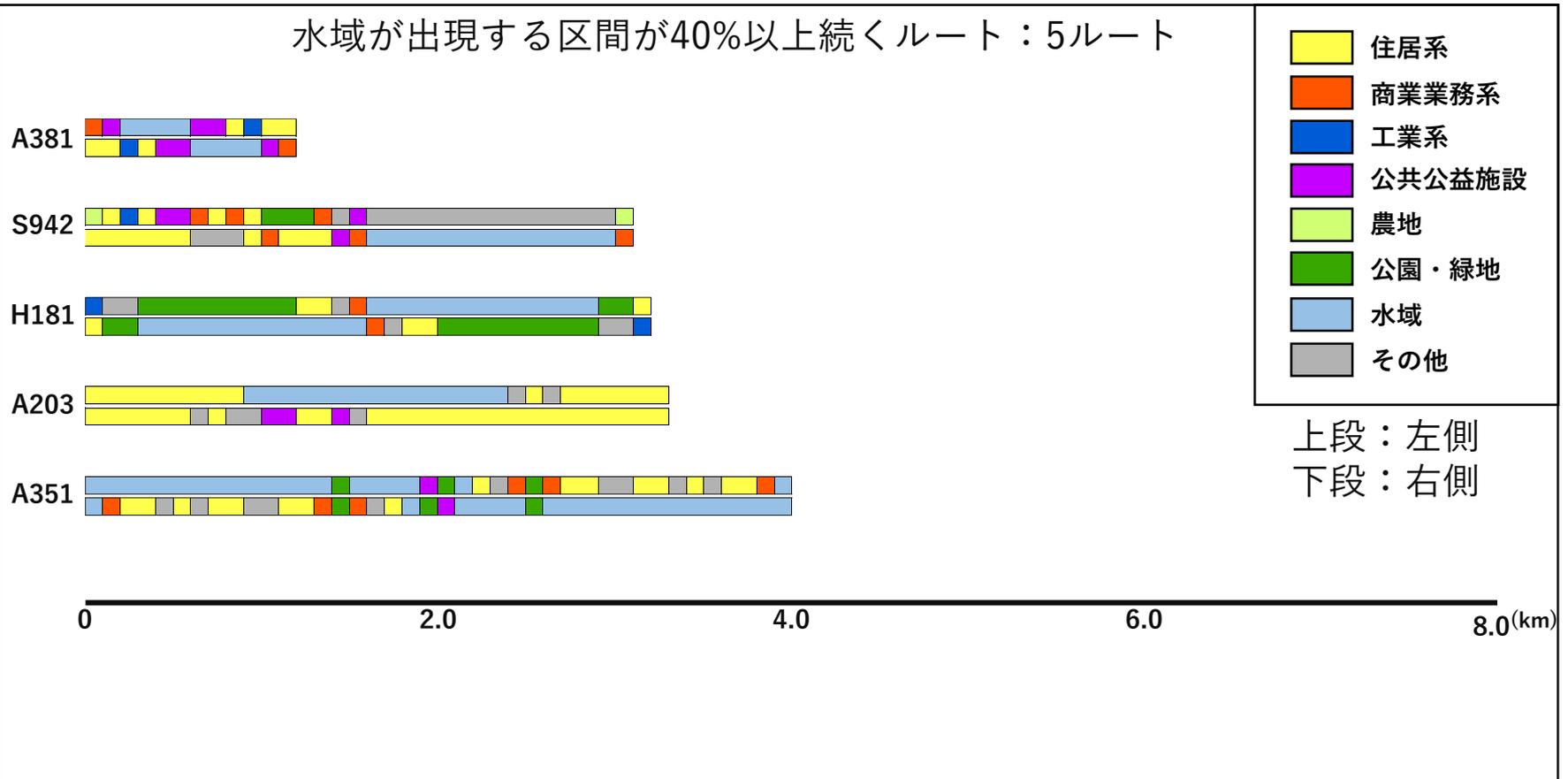
G2.緑道が続き緑陰が心地よく

ベンチや休憩施設が適度に配置されているルート

38ルート

沿道土地利用とお気に入り緑

水域が出現する区間が40%以上続くルート：5ルート



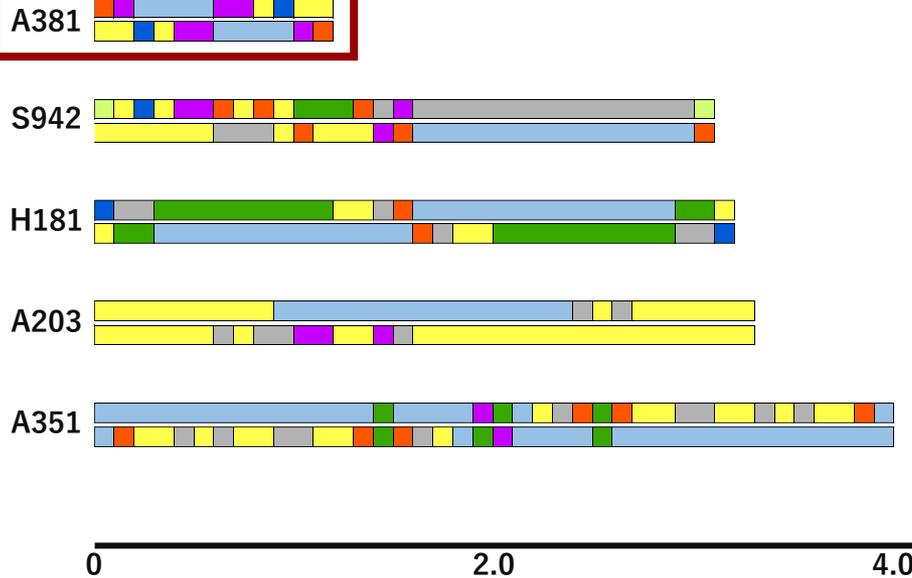
G2.緑道が続き緑陰が心地よく

ベンチや休憩施設が適度に配置されているルート

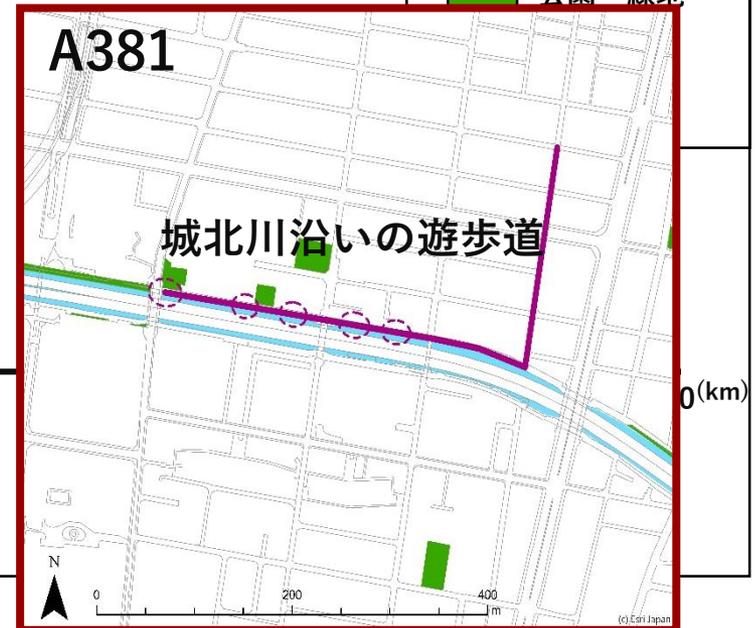
38ルート

沿道土地利用とお気に入り緑

水域が出現する区間が40%以上続くルート：5ルート



- 住居系
- 商業業務系
- 工業系
- 公共公益施設
- 農地
- 公園・緑地



G2.緑道が続き緑陰が心地よく

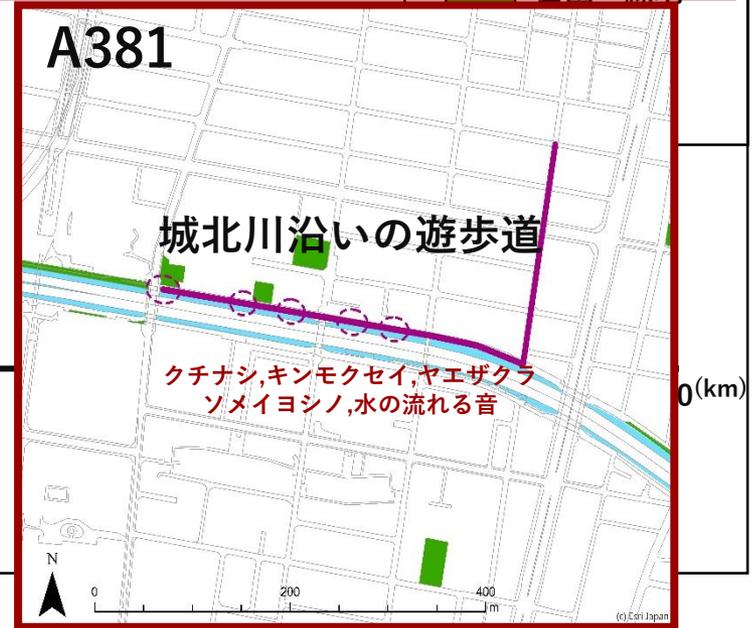
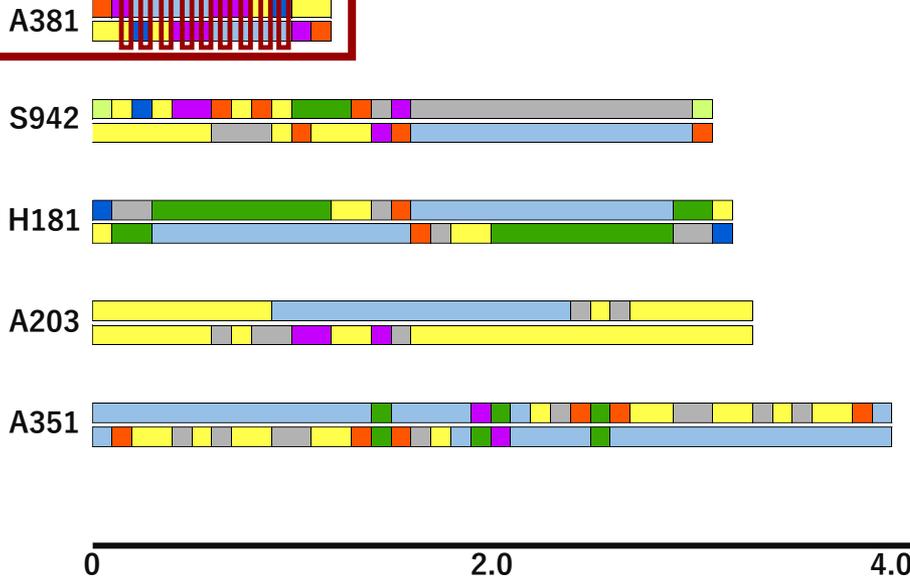
ベンチや休憩施設が適度に配置されているルート

38ルート

沿道土地利用とお気に入り緑

水域が出現する区間が40%以上続

クチナシ,キンモクセイ,ヤエザクラ
ソメイヨシノ,水の流れる音



G2.緑道が続き緑陰が心地よく

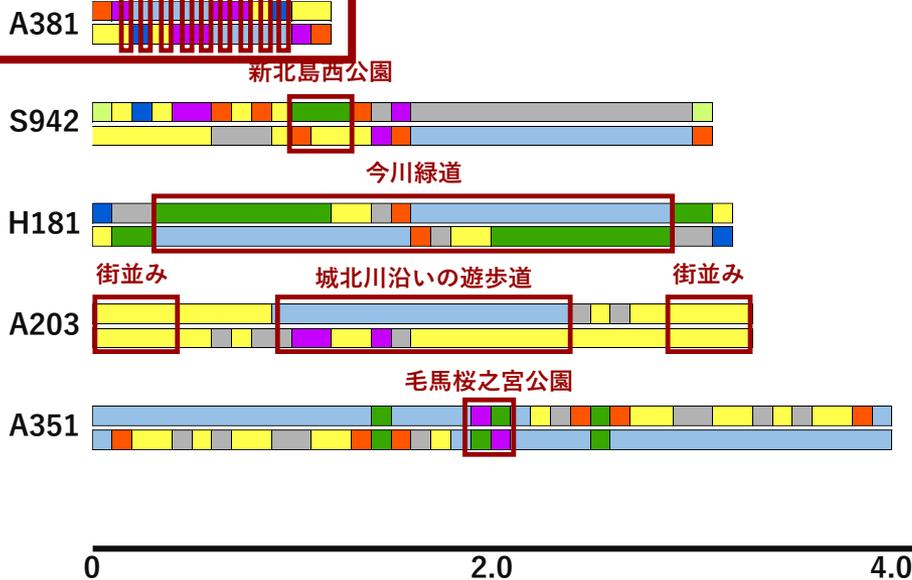
ベンチや休憩施設が適度に配置されているルート

38ルート

沿道土地利用とお気に入り緑

水域が出現する区間が40%以上続

クチナシ,キンモクセイ,ヤエザクラ
ソメイヨシノ/水の流れる音



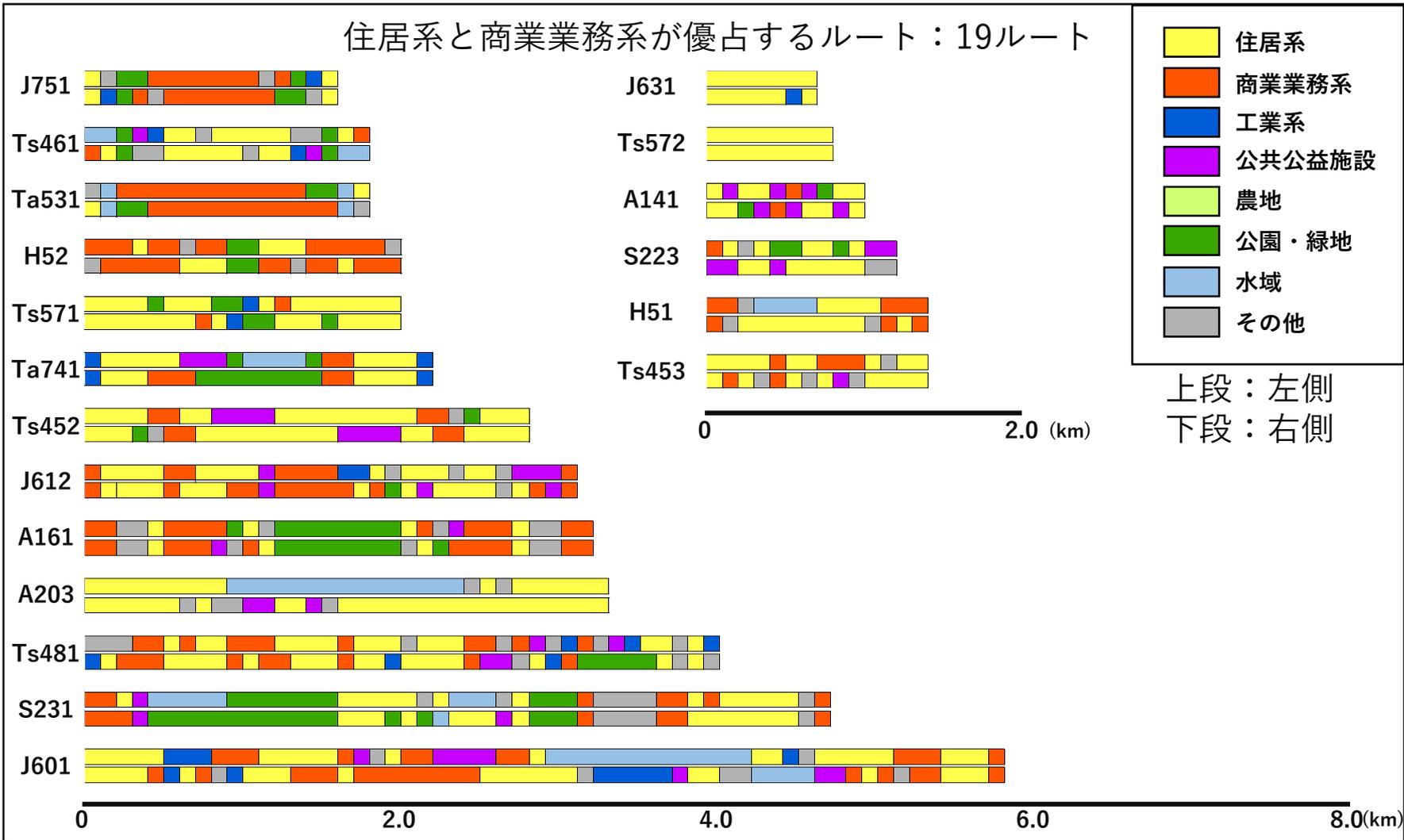
G2.緑道が続き緑陰が心地よく

ベンチや休憩施設が適度に配置されているルート

38ルート

沿道土地利用とお気に入り緑

住居系と商業業務系が優占するルート：19ルート



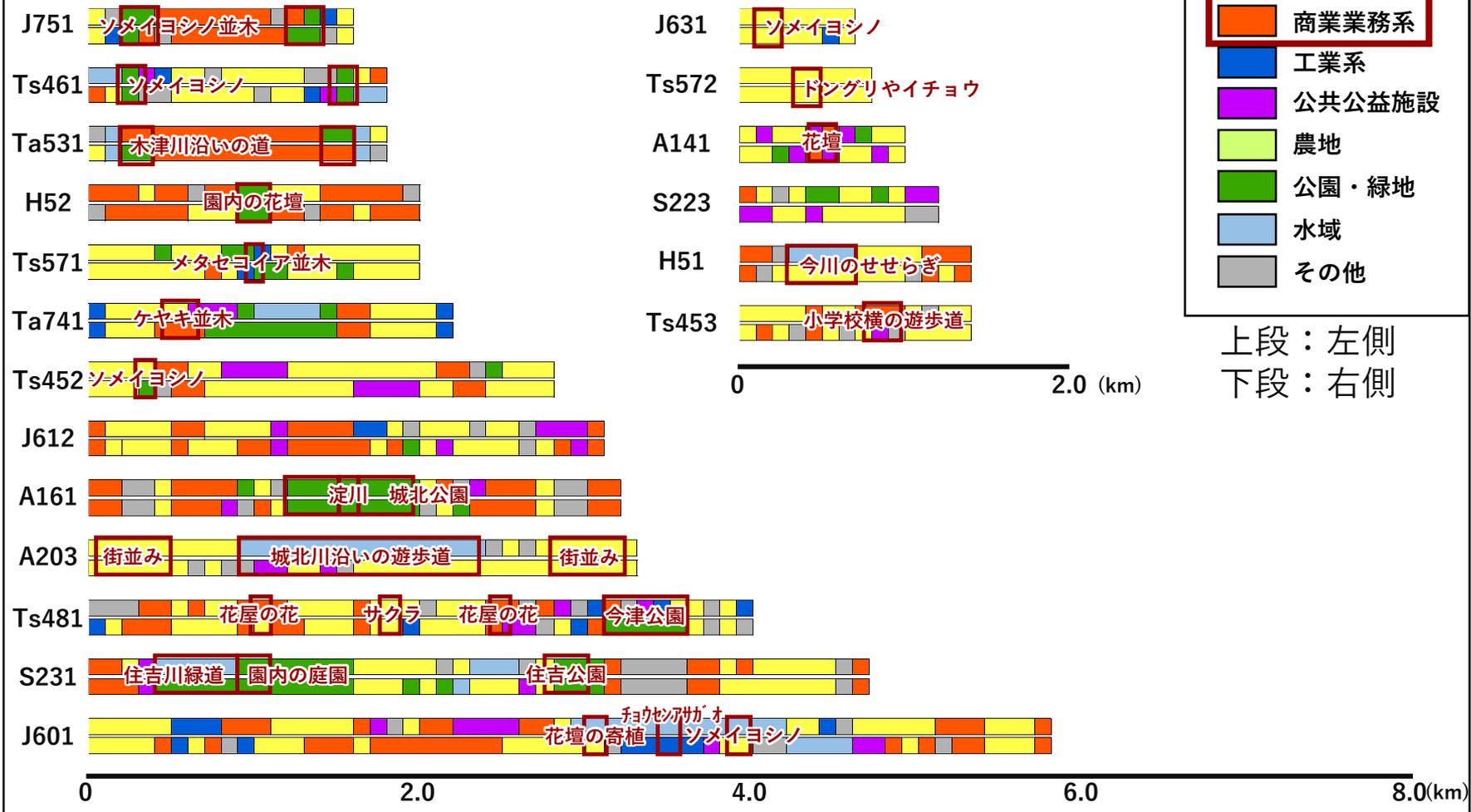
G2.緑道が続き緑陰が心地よく

ベンチや休憩施設が適度に配置されているルート

38ルート

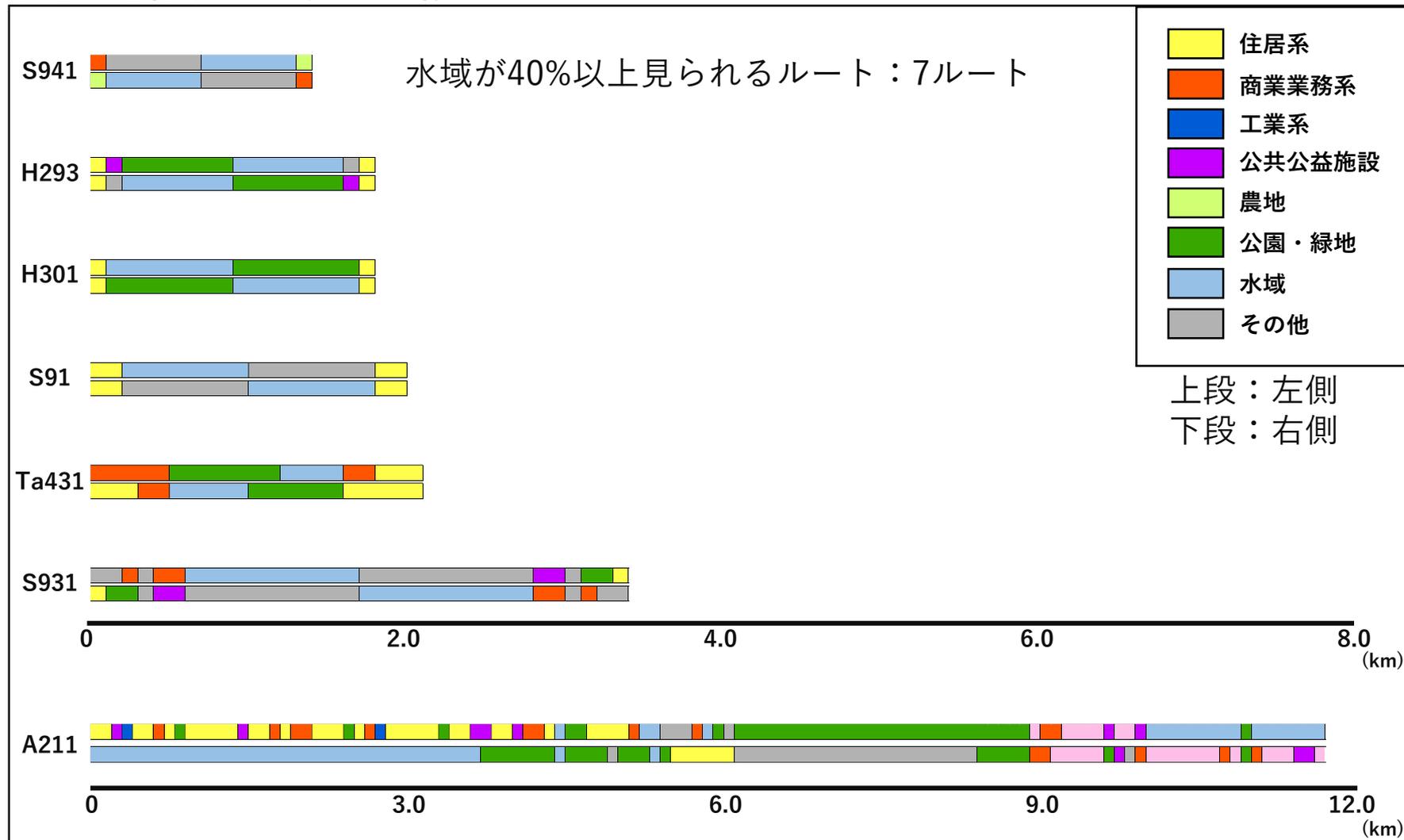
沿道土地利用とお気に入り緑

住居系と商業業務系が優占するルート：19ルート

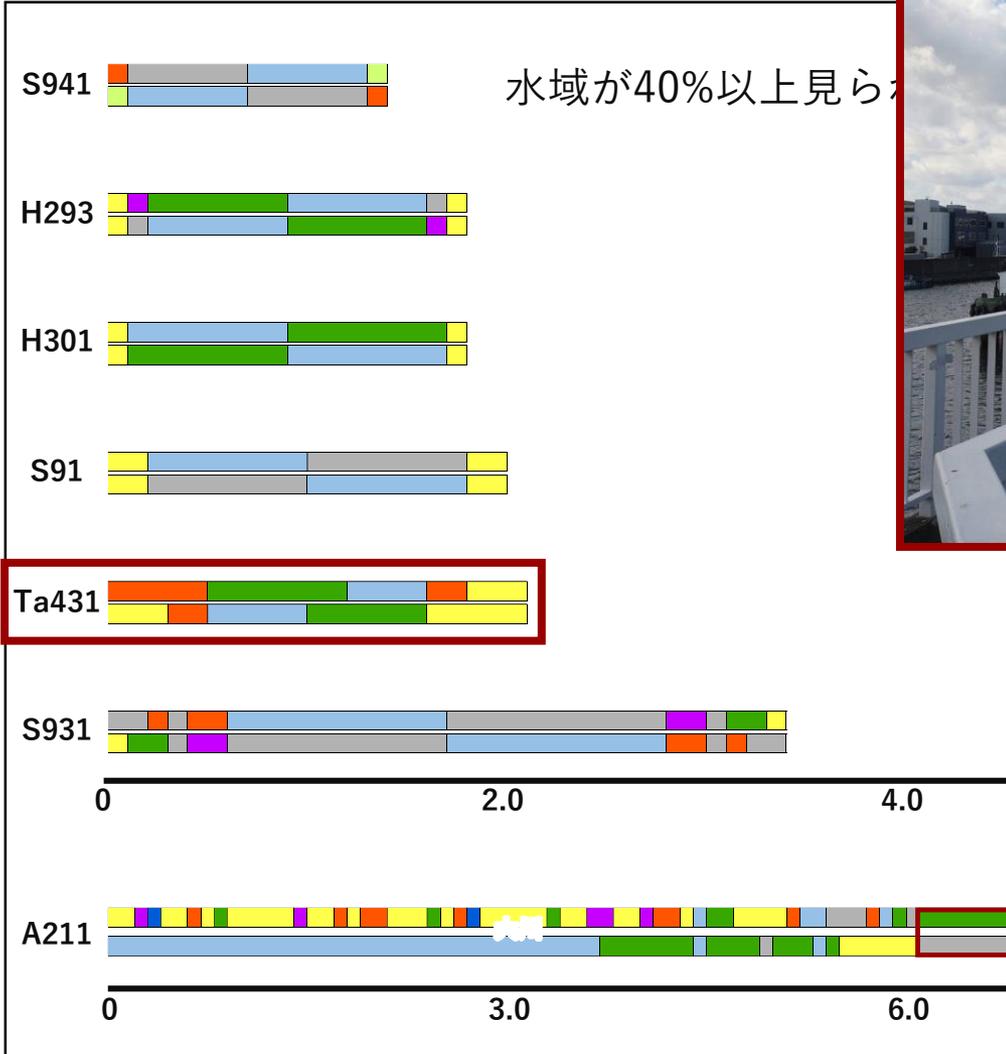


上段：左側
下段：右側

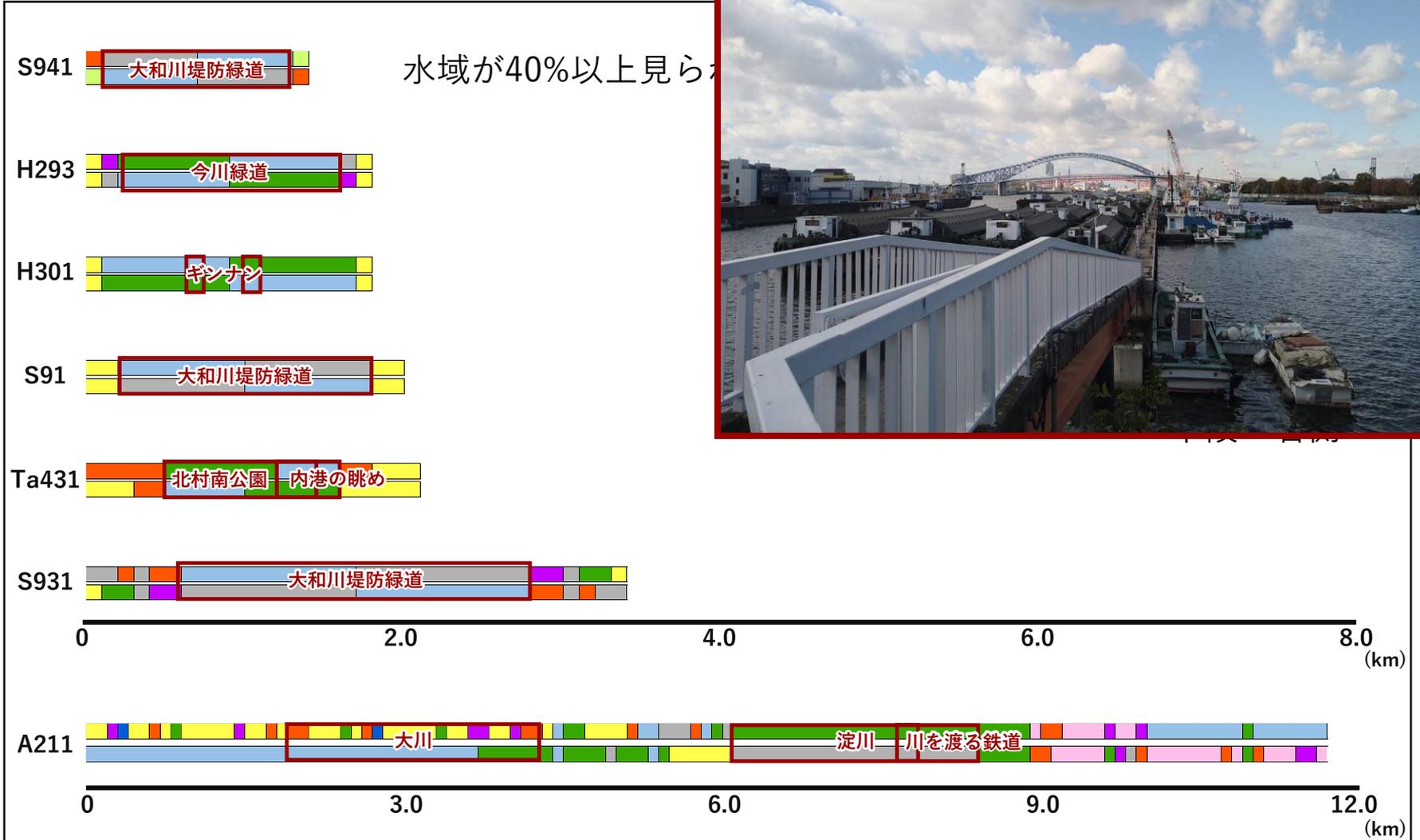
沿道土地利用とお気に入り緑



沿道土地利用とお気に入り緑

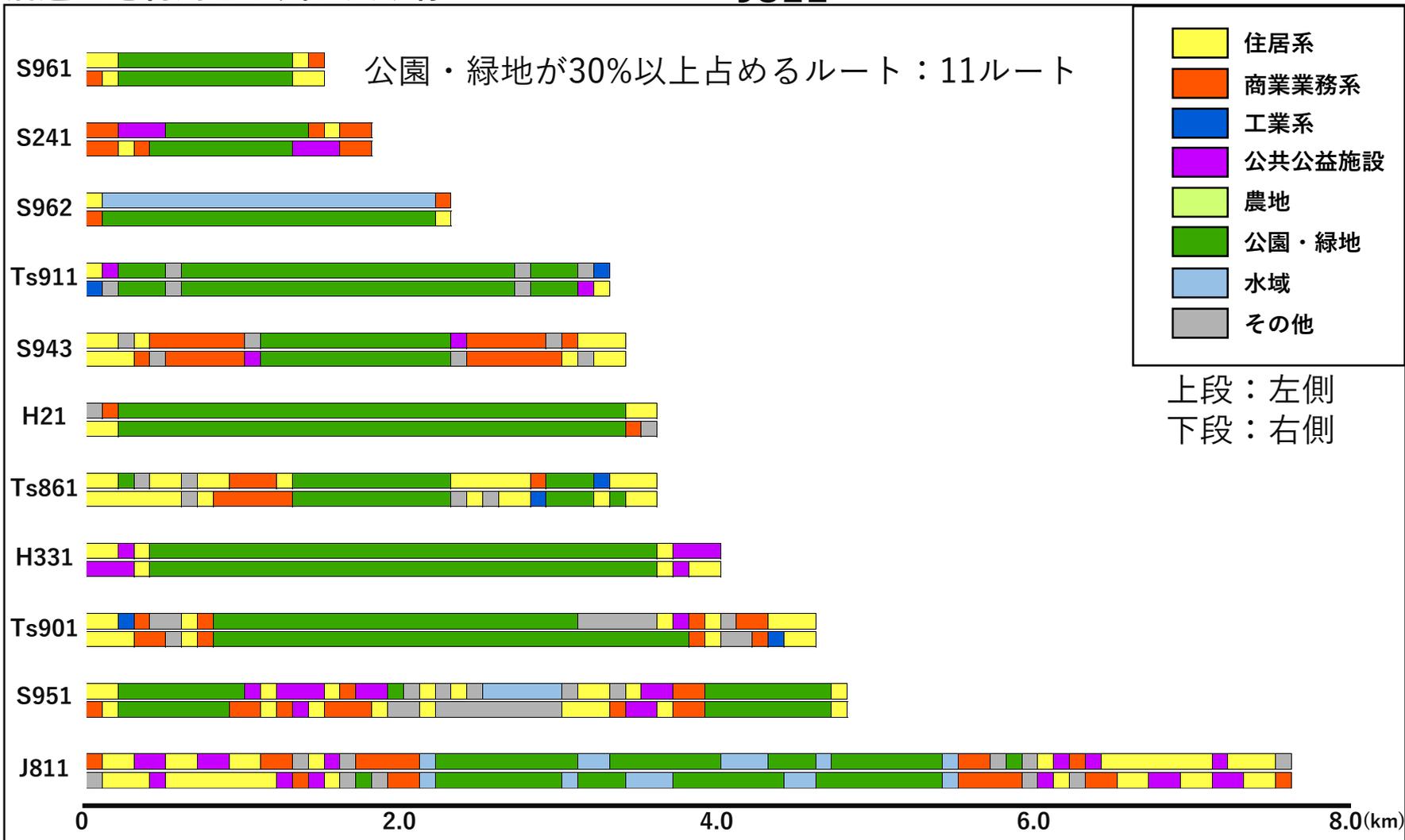


沿道土地利用とお気に入り緑



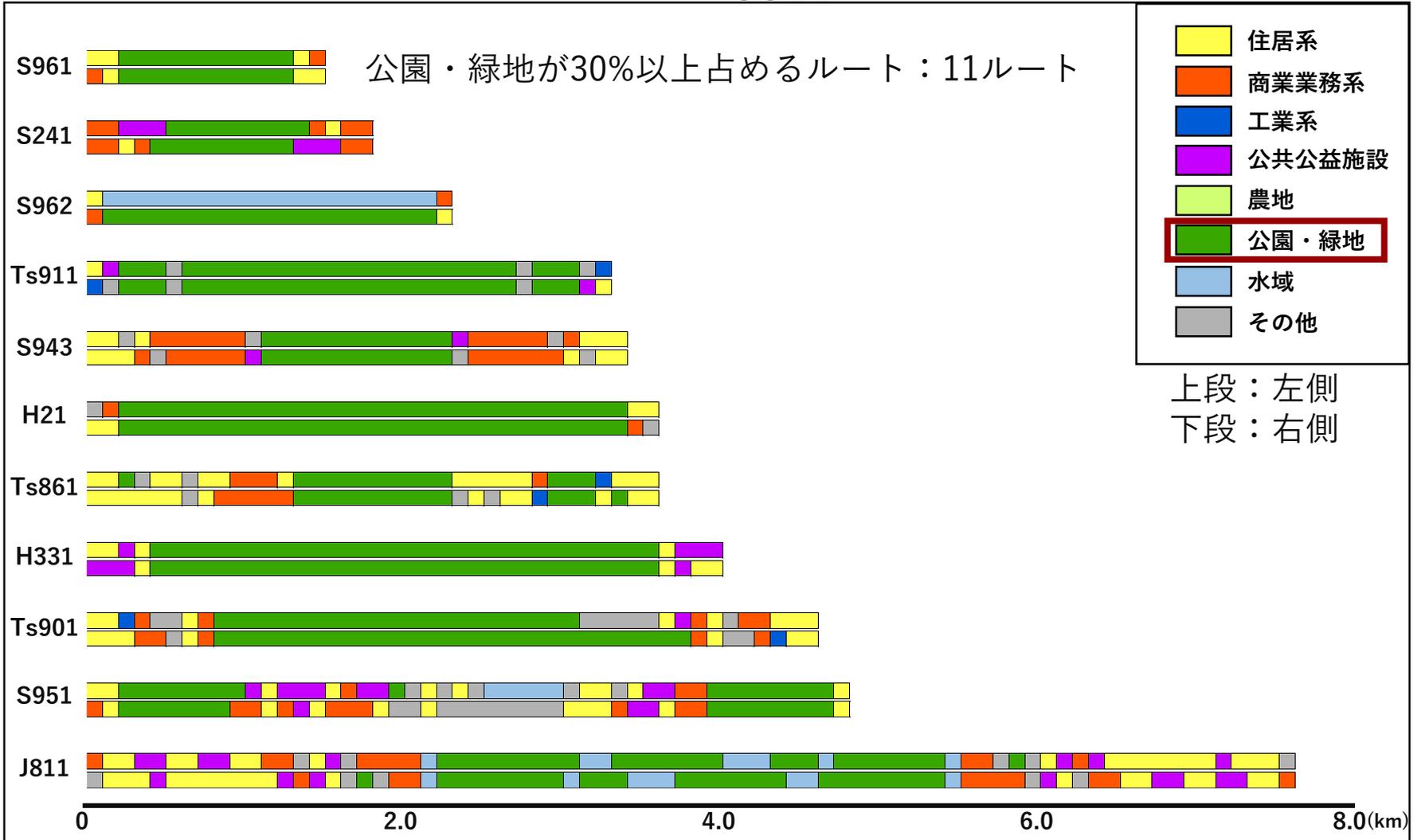
沿道土地利用とお気に入り緑

J811

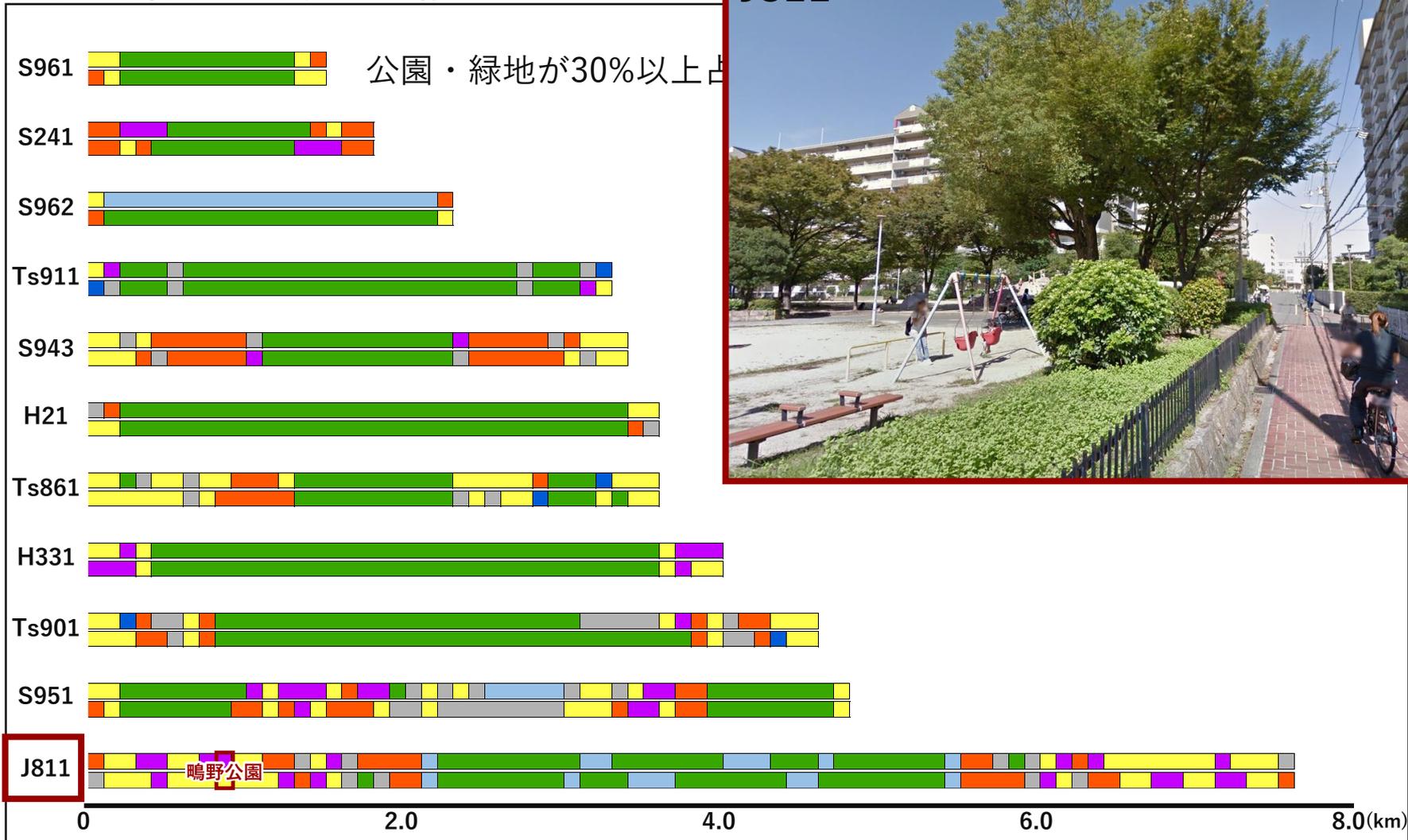


沿道土地利用とお気に入り緑

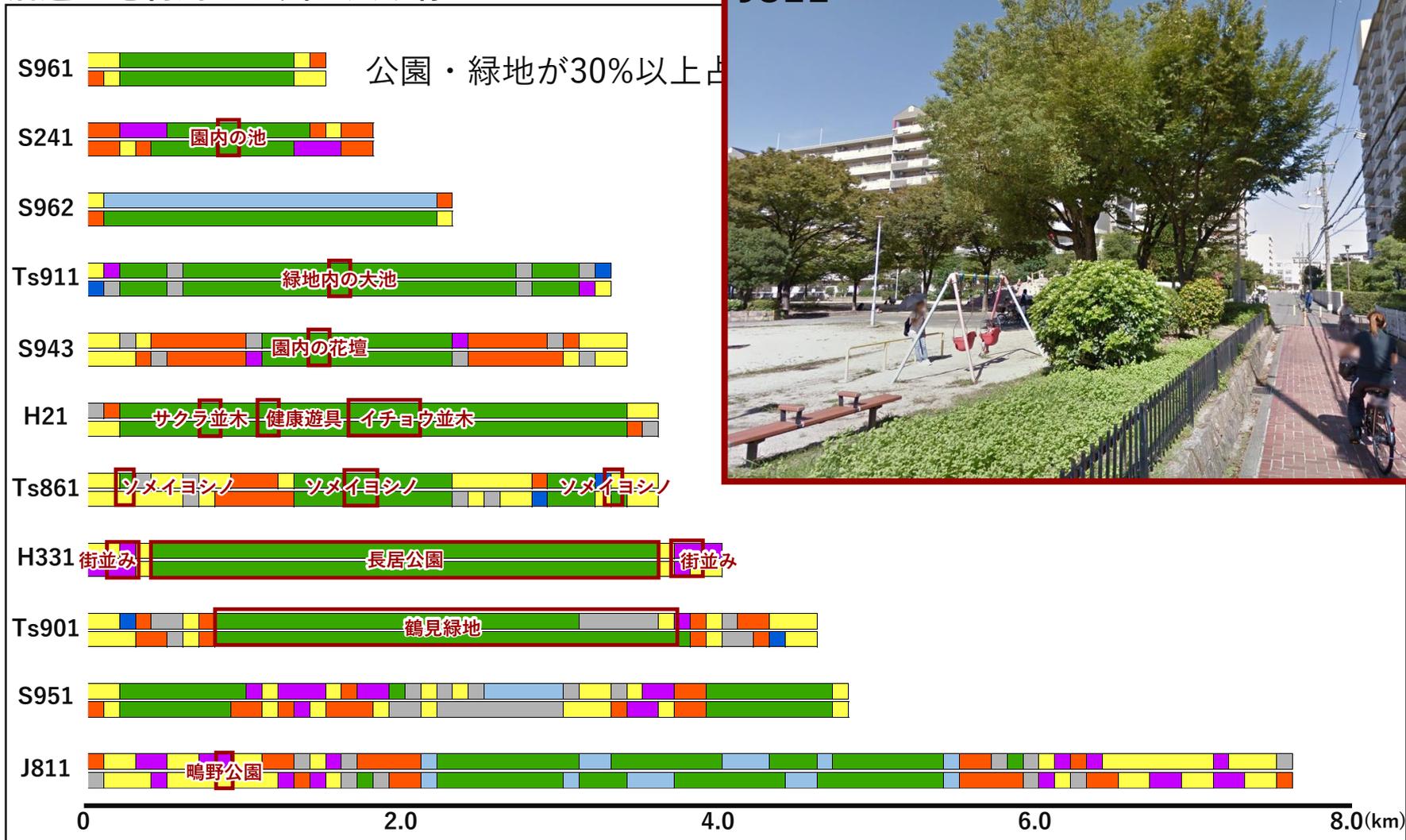
J811



沿道土地利用とお気に入り緑



沿道土地利用とお気に入り緑



まとめ

住民の散歩状況について

高齢者を中心として健康維持を目的とした1時間前後の散歩が日常的に長期間継続されている。一方で、コロナ禍をきっかけに新たに散歩を始めた人も確認できた。

散歩は、健康増進だけでなく、気分転換やコミュニケーションを図るためにも行われていた。

散歩ルートを選択理由として、歩きやすさだけでなく、緑陰や四季の変化といった歩きたくなる環境も重視されていた。

散歩ルートと緑地の出現状況との関係性について

大規模公園や緑道は、緑が連続することで快適に歩くことができる。

スポット的に現れる園内の花壇やイチョウ、ケヤキ並木等の落葉樹は四季の変化を楽しみながらの散歩において重要である。

運河や水路といった水辺の眺望景観、まちの活気や路地の園芸等の人の気配が感じられる緑も散歩ルートを彩る環境要因となっている。